

横浜キネマ倶楽部

<第84回上映会>1988年/日本/110分/DVD 上映

古くから隊散る

<終戦80年記念上映会>

7月27日(日)

1945年8月6日 ヒロシマに幕を閉ざされた青春群像へ、
鎮魂をこめて、世界に問う、今日 そして明日のために。

12:30開場/13:00上映

【1回のみ上映】

【講演】15:00~16:00

【講師】新藤次郎さん
(本作のプロデューサー)

「チケットぴあ」から
入場券が購入できます
購入は7月26日(土)迄となります
(Pコード:555-006)
「セブンイレブン」でチケット購入可能



(C)近代映画協会 天恩山五百羅漢寺

吉田将士 未来貴子 八神康子 川島聡互 竹井三恵 水野なつみ
千田是也 杉村春子 宇野重吉 殿山泰司 長門裕之 小澤栄太郎
監督・脚本:新藤兼人/ナレーター:乙羽信子/プロデューサー:新藤次郎

横浜市南公会堂(南区総合庁舎内3階)

(席数400席)

後援:横浜市教育委員会

【入場料】前売:1,000円 当日:1,300円 障がい者:1,000円 介助者1名無料

【主催・問合せ】☎080-2554-8023(10時~18時)横浜キネマ倶楽部

【プレイガイド】有隣堂伊勢佐木町本店☎045-261-1231/高橋書店(元町)☎045-664-7371

いづみ書房☎045-241-1104/シネマ・ジャック&ベティ(黄金町)☎045-243-9800

横浜シネマリン(長者町)☎045-341-3180/岩間市民プラザ(天王町)☎045-337-0011

【チケットぴあ】(Pコード:555-006)「セブンイレブン」でチケットの発券ができます。

【最寄駅】
市営地下鉄「阪東橋」駅
徒歩約8分
京浜急行「黄金町」駅
徒歩約14分

【最寄バス停】
浦舟町 市営・京急バス 徒歩約3分



さくら隊散る

脚本・監督
新藤兼人

解説

昭和二十七年「原爆の子」以来「第五福竜丸」(三十二年)「ドキュメント8・6」(五十二年)と、常に原爆の問題に積極的に取り組んで来た広島出身の新藤兼人が、江津秋枝著「桜隊全滅」(未来社刊)に感動し、これを基に構成・演出する長編ドキュメントです。

桜隊は、第二次大戦下、新劇人達で組織された移動演劇隊の一つで、広島に巡演中、八月六日、爆心地近くで原爆の洗礼をうけ九人が非業の死を遂げました。隊長で新劇界の大スターと言われた丸山定夫、宝塚出身で「無法松の一生」にその華麗さを印象づけた園井恵子、将来嘱望された若い新劇人島木つや子、森下彰子、羽原京子、笠桐子、小室喜代、仲みどり、高山象三、の九人の殉難者です。

昭和二十七年、丸山定夫と深い関りのあった徳川夢声が中心になって、五百羅漢寺の協力で九人の原爆殉難碑が、東京目黒五百羅漢寺に建立され、毎年「原爆忌の会」の集いが墓前で行われ、故人の冥福と平和への誓いを新にしています。毎年参加者も増え桜隊の悲劇を超え、原爆を風化させないよう反核の祈りが高まっています。

天恩山五百羅漢寺の協力を得て、近代映画協会と提携製作します。(時間五十分)

生命の尊厳・作者の願い

天恩山五百羅漢寺 奥書院にて・日高宗敏
人類の革命家たちよ、

自己の欲望のために争ってばかりはならぬ。人の生命は地球よりも重きことを悟れ。

第二次世界大戦が終りを告げて四十二年の歳月が流れた。当時、私は小学校五年生であった。敗戦の悔しさは今も忘れることが出来ない。何故に日本の広島に原子爆弾が投下されたのであろうか。此の不幸と涙は言葉で表現することは出来ない。

「涅槃寂靜」。煩悩を離れた境地で全世界の人々に一人でも多く、此の映画を通して現実の姿を知って戴きたい。一度と再びこのような悲劇を繰り返してはならない。

戦争を知らない若い人達よ、二十一世紀に向かって、平和の鐘を打ち続けようではありませんか。ノオモア広島。苦しみと悲しみの中で死した多くの同胞諸氏のご冥福を祈る！

合掌

演出ノート

新藤兼人
桜隊は、昭和二十年八月六日、広島に原爆が投下された日にちょうどここにいた。

移動演劇隊中国支部の広島を拠点とし、山陰・山陽地方を巡演するのが桜隊に課せられた任務だった。七月上旬から中旬にかけて、島根、鳥取の巡演を了えて広島に帰り、次の巡演を待機中に八月六日を迎えた。隊員は丸山定夫、園井恵子、仲みどり、島木つや子、森下彰子、羽原京子、笠桐子、小室喜代、高山象三、の九名だった。

八時十五分、原子爆弾は炸裂、数百万度の熱線が人を焼き、爆風がこっぴょうに家を吹き飛ばし、放射能が人の体内にさしこんで内臓を破壊した。

中国支部はとび散り、たたきつけられた。丸山定夫、園井恵子、高山象三、仲みどりは猛火の中から這い出して逃れたが、五人の隊員は家と共に飛び圧死した。

丸山定夫は敵島に逃れたが、八月十六日に体が焼けるような高熱に悶えながら四十四歳の生涯を閉じた。園井恵子と高山象三は、六甲山麓の中井家に助けを求め、助かったとひと息つくひまもなく高山象三は二十日、四十度を超す高熱を出して水を求めつつ死去。二十歳の若さだった。園井恵子は、二十一日、同じく高熱にうなされ水を求めながら死去。三十一歳だった。仲みどりは、シーツ一枚をまとって東京にたどりついたが、不気味な無力感に陥り東大病院に駆けこんで、二十四日、苦悶のうちに死去。三十六歳だった。

いづれも、放射能によって体内臓器を破壊され、いわゆる原爆症を呈して死んだのであったが、それが原爆症であるとかかるのはのちのことであつた。歯茎から出血、脱毛、血便血尿、異常な喉の乾き、とまらないしゃっくり、に苦しみながら死んでいった。原爆は一挙に広島全市を焼きつくしたのだが、無傷の人にも恐るべき放射能を忍びこませたのである。

この映画は、桜隊の殉難を忠実に記録するものである。原爆に命を奪われた九人の演劇人の鎮魂になればと願う。

世界に向けて

小澤栄太郎
(俳優・原爆忌の会会長)
丸山さんは、魂をもつていた役者といえる。心で演じる滅多にいない良い役者だった。詩人と言つてもいい。

反対に、地上のことも大好きで、人間らしい人間でもあり実に不思議な人だった。今度の戦争では、日中戦争で、独得の役者だった友田恭助を失い、太平洋戦争では、原爆で丸山を失った。新劇界は大きな犠牲を払わされたといえよう。

一年に一回、原爆忌に、さくら隊をしのんで関係者が集まり若い人達に平和の思いを伝えてゆくことは大いに意義があることと思う。今度、これが映画化されて、更に多くの人々に知られることは有難いことだ。

新藤監督は、「ある映画監督の生涯」というドキュメンタリー作品でとても良いものをつくつたので、信頼してお任せしている。是非世界映画としても應えていただけるよう心から願っている。

スタッフ

製作 近代映画協会
製作 天恩山五百羅漢寺
原作 池田生二
企画 能登節雄
監督 江津秋枝

脚本・監督 新藤兼人
撮影 三宅義行
音楽 林重光
美術 山下重盛
照明 永田弘博
録音 近藤光雄
編集 藤上潔
プロデューサー 新藤次郎

監督助手 新藤銀子
撮影助手 山代真高
照明助手 岩波裕司
装飾 高桑道明
衣装 鈴木康夫
録音B班 塩原政勝

ナレーター 乙羽信子

出演者

◎出演者
*桜隊のメンバー
丸山定夫(41歳)古田将士
園井恵子(32歳)未来貴子
仲みどり(36歳)八神康子
高山象三(21歳)川島総互
島木つや子(22歳)竹井三恵
森下彰子(23歳)水野なつみ
羽原京子(23歳)元松功子
小室喜代(30歳)北川真由美
笠桐子(41歳)阪上和子
植村浩吉(34歳)及川以造
池田生二(33歳)川道信介
八田元夫(42歳)内堀和晴
*珊瑚座のメンバー
及木年雄(40歳)大林隆介
沢道子(22歳)石川裕見子
*その他
赤星勝美(35歳)黒川博之
中井夫人(52歳)岩倉高子
羽原の父 上杉漢
羽原の母 江藤二美
散髪屋 広瀬昌助
太田 怜・東大生 清水一男
清水善夫・東大生 内田正樹
他 珊瑚座座員

証言者

千田是也 滝沢修 小澤栄太郎 宇野重吉 松本克平 嵯峨善兵 浜村浩純 横村浩吉 池田生二 倉田地三 殿山泰司 乃木年雄 長門裕之 河原崎国太郎 山本安英 杉村春子 利根はる恵 章原邦子 櫻井紗子 内海明子 有馬智寿 日高宗敏 丸山由利亜 赤星勝美 清水善夫 太田 怜 神田泰雄 桑原経重 木上ヌイ 江津秋枝

(C)近代映画協会 天恩山五百羅漢寺

第85回 横浜キネマ倶楽部 9月15日(月・祝)『真昼の暗黒』 南公会堂

【横浜キネマ倶楽部】

住所: 〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民活動サポートセンターNo.269 横浜キネマ倶楽部

〈問合せ〉 TEL 080-2554-8023(10~18時) Eメール:yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp HP アドレス https://yk.jimdo.free.com/